

## 第 33 回岩手県食の安全安心委員会議事録

### 1 開催日時及び場所

令和 6 年 6 月 17 日（月）14 時 00 分から 15 時 30 分 盛岡市勤労福祉会館 5 階 大ホール

### 2 出席者の氏名

#### (1) 委員

有住百香里委員、小山田緑委員、菊地セツ子委員、山口真樹委員、吉田敏恵委員、井口一三委員、後藤和彦委員、嵯峨潤子委員、佐藤圭委員、佐藤浩文委員、高橋輝委員、新沼辰彦委員、梁川真一委員、佐藤至委員、平澤和樹委員、山崎朗子委員

#### (2) 関係室課等

堀川勇復興危機管理室主任、櫻井直之防災課主査、山崎仁嗣学事振興課主査、川又康明環境保全課主任主査、成田雄氣資源循環推進課主任主査、浅沼公紀若者女性協働推進室主任主査、枋内圭子健康国保課医務主幹、篠田尚美健康国保課主任主査、坂下藤子健康国保課主任、佐賀唯衣子ども子育て支援室主任、清水稔子産業経済交流課主任主査、田澤英寿農林水産企画室主任、林尻雄大流通課主任主査、瀬川涼太流通課主事、木村薫農業振興課主任、内田愛美農業普及技術課上席農業普及員、阿部結農業普及技術課技師、西田旬農産園芸課主査、昆野雄介畜産課主任主査、佐藤裕夫畜産課主査、佐々木司水産振興課技師、粒來幸次保健体育課主幹兼保健体育担当課長、菅原史子保健体育課指導主事、佐々木透生涯学習文化財課主任社会教育主事、千葉和久環境保健研究センター主席専門研究員兼衛生科学部長、佐藤直人環境保健研究センター保健科学部長、稲川多佳子県民生活センター主任主査

#### (3) 事務局

大畑光宏環境生活部長、小國大作環境生活副部長、木村真智県民くらしの安全課総括課長、千葉正食の安全安心課長、晴山久美子主査、金野壱星主事、齋藤楓主事

### 3 議事の概要

#### (1) 開会

#### (2) あいさつ

大畑光宏環境生活部長があいさつを述べた。

#### (3) 議事

##### ア 令和 5 年度における食の安全安心の確保のための施策評価について

千葉正食の安全安心課長から資料 1 - 1 及び資料 1 - 2 により説明があった。

##### 【質問・意見等】

- 吉田敏恵委員 3 ページ、学校給食における県産食材の割合について、金額ベースとすることであれば、物価高騰もあるが、実際は食べる量は減ってきているが、金額が高いので、県産食材を食べているようにも見えるが、いかがか。

- **菅原史子保健体育課主事** こちらの調査については、金額ベースということで、確かに全体使用率に対してどのぐらいの割合かというところで、昨今の物価高騰という状況もありますが、県産食材が高いということは一概にも言えないところがあり、そういうところも含めて、金額だけに引っ張られないということでは、考えている。
- **吉田敏恵委員** 実際としてはそんなに変わらないということですよ。輸入品についてはやっぱり増えてきている。燃料費も高くなってきて、それに引っ張られて県産品も高くなってきて、金額に惑わらされ、それでちゃんと食べているように見えているのであって、実際は食べてないんじゃないかなとちょっと心配したものですから、それを考慮した上で、このパーセンテージを考えていますということなんですけれども、実際はどうなんですか。若干数字では減っているんですけども、凄く急激に食べているんですよという訳ではないんじゃないでしょうか。
- **菅原史子保健体育課主事** 学校などに確認をしましたが、例えば輸入品に切り替えたってということもないというふうに確認しております。
  
- **佐藤至委員長** ひとつ私の方からお尋ねしたいのですが、県産の貝毒食中毒の件数がゼロということで良かったのですが、今はホタテがかなり出荷できない状況になっていると思うのですが、出荷自粛の状況はどのようになっていますか。
- **佐々木司水産振興課技師** 今年に入って3月から6月まで、貝毒が県内全体に広がっている状態で、12海域あるなかで11海域が現在規制となっている。かなり県内で規制がかかっていて、ホタテと二枚貝の出荷ができない状態になっている。
- **佐藤至委員長** ホタテについては、加工して貝柱を使えば良いということでしたでしょうか。
- **佐々木司水産振興課技師** はい、そうです。貝柱であれば利用できます。貝柱そのものには貝毒というのは含まれづらいので、貝柱のみで検査をした上で出荷できます。
- **佐藤至委員長** 食の安全安心の確保のための施策の取り組みについては、14指標のうち13指標が達成あるいは概ね達成ということで、順調に取り組んでいるということでしょうか。  
(委員から異議なし)

## イ 令和5年度における取組実績及び令和6年度計画について

### (ア) 岩手県食の安全安心推進計画

千葉正食の安全安心課長から資料1－3により説明があった。また、県以外の主体の取組について、資料1－4により、佐藤圭委員、高橋輝委員、小山田緑委員から説明があった。

**【質問・意見等】**

- **佐藤至委員長** 佐藤圭委員にお尋ねします。食品衛生責任者養成講習会を23回開催していて、1,999名の責任者を養成されたとのことですが、これは資格に期限はありますか。
- **佐藤圭委員** 食品衛生法で設備には責任者を設置することとなっています。一回の受講で更新の講習を受講していただくこととなっています。最近、資格を取得することに非常に興味を持つ方が多くいらっしゃいまして、各保健所が主体となって各地で開催しています。令和4年度から、イーラーニングというのを開催してまして、インターネット使った受講で資格を取得するというので、300名くらい受講しています。
- **吉田敏恵委員** 身内びいきみたいで申し訳ないのですが、6ページのことです。いわて生協、また色々な生協が、県産品を使うことに非常に頑張っています。もう少し取り組み内容について、書いて欲しかったなと思っています。
- **千葉食の安全安心課長** 各委員のみなさまにご案内して情報を集めておりますので、次回は配慮しながらご案内したいと思います。
- **佐藤至委員長** 令和5年度における食の安全安心推進計画の取組実績、令和6年度の取組計画について、承認ということによろしいか。  
(委員から異議なし)

**(イ) 岩手県食育推進計画**

千葉正食の安全安心課長から資料2-1及び資料2-2により指標の状況について説明があった。

**【質問・意見等】**

(質疑等なし)

続いて、千葉正食の安全安心課長から資料2-3により県の取組実績について、資料2-4により、小山田緑委員、佐藤圭委員、高橋輝委員、嵯峨潤子委員から各所属団体での取組について説明があった。

**【質問・意見等】**

- **有住百香里委員** 保育の専門家なので、その視点から質問させていただきます。資料の2-3のところですか。これまで子どものことは文科省、厚労省、内閣府が管轄していましたが、昨年よりこども家庭庁が開設され、「こどもまんなか社会」を目指し、様々な整備や政策が急ピッチで進められています。こども家庭庁が支援する子どもとは、胎児からではなく妊娠前の女性からが対象です。資料の2-3では、

妊娠前の女性のフォローについては書かれておりませんが、どのようにお考えでしょうか。現在、妊娠前の女性が葉酸を摂取する大切さが叫ばれています。葉酸を摂取すると障害をもった幼児の出現率が低くなるという研究結果もあります。食事からは取りにくい葉酸をどのように摂取すればよいかという課題も含め、妊娠前の女性を対象とした取り組みを教えていただければと思います。

○ **佐賀唯衣子ども子育て支援室主任** おっしゃっていただいたとおり、現在妊婦になる前からの栄養ということで、プレコンセプションケアを国のほうで進めているところです。妊娠前からの栄養は、ゆくゆくは妊娠したときの胎児に繋がるということで、妊娠前の対応について、県の方では漫画だったりとかウェブ漫画で広報向けに冊子を配布したりしています。あとは保健所の方に、中学校高校に出前講座という形でプレコンセプションケアの取組の浸透を進めているところです。今後、様々な形で中学生、高校生、または妊娠前の方に、周知していければなと思っていましたところ。

○ **佐藤至委員長** 令和5年度における食育推進計画の取組実績、令和6年度の取組計画について、承認ということでよろしいか。  
(委員から異議なし)

## ウ その他

### 【質問、意見等】

○ **吉田敏恵委員** 最新の情報提供というところで発言させていただきます。国の制度に不安を持っている。ひとつは、ゲノム編集食品です。これは何年か前から声が出ていることです。ゲノム編集食品は紅靴のように機能だけがチェックして、任意だけでいいというのがあって、国が全然チェックしている訳じゃない。日本が凄くゲノム編集食品に前のめりで開発しているので、今後もしかしたら岩手の中でもそれと知らずにゲノム編集のトマトを植えるだとか、あと魚もありますが、岩手の場合、魚の養殖というのは考えられないので、トマトだったり、新しい農作物とかが出てくる可能性があって、しかも無表示のものがああります。消費者としては、やはり表示はちゃんとして欲しいというのが基本的なスタンスなので、県の施策の中で、関心のある勉強会を開催するとはあったのですが、国が表示なしにどんどん流通を先行して進めてしまうと、消費者が追いつかないというのがあるので、凄く不安である。前回の会でアレルギーのことが出ましたけども、食品に対してアレルギーを持っている人が凄く増えてきましたし、子どもだけじゃなくて、大人も突然発症したりする。このゲノム編集食品がなにかのこのものがちゃんとよく分からないなかで、無表示で世に出ていく、生産者が知らずに植えるという可能性があることを、県としても認知していただいて、なにかしら予防策を講じていただきたい。何もな

しで流通することがないように考えていただきたい。

- **佐藤至委員長** ゲノム編集食品について、何か情報はるか。
- **千葉食の安全安心課長** 心配している方がいる認識はありますが、当課では毎年開催しているリスクコミュニケーションにおいて、事業者の側や消費者の側など立場の違う方々のなかで、さまざまな情報交換をしながら進めていきたい。昨年テーマの中にゲノム編集食品を加えて取り組みました。今後も検討していきたいと考えています。
- **吉田敏恵委員** 知らずに生産されてしまう、植え付けられてしまう、対策はあるのですか。それへの警戒というのはないのですか。
- **西田旬農産園芸課主査** 苗などにおいて、ゲノム編集されているという表示の規制がない中では、種苗業者が自ら表示するのであれば把握はできると思うが、隠すわけではないだろうが表示せずに流通してしまうと、こちらも把握は難しい。
- **木村真智県民くらしの安全課総括課長** 必要に応じて、関係各所に働きかけたいと思います。
  
- **佐藤至委員長** その他、委員から質問はあるか。  
(質疑等なし)

千葉正食の安全安心課長から資料3により食の安全危機事案の対応について説明があった。

【質問、意見等】

(質疑等なし)

(4) その他

【質問、意見等】

(質疑等なし)

(5) 閉会